

ようごしゅう (しょきゅう)

<あぎょう>

・あいさつ

ひととひとがであったときや、わかれるときにかわすれいぎてきなことばや
どうさです。

あいさつはこみゆにけーしょんのきほんです。

(あ)あかるく、げんきに、(い)いつでも、だれにでも、(さ)さきに、すすんで、

(つ)つづけましょう。

・あつしゆく えいきゅう ひずみ

ちょうじかんちからをくわえてへんけいさせると、ちからをとりのぞいてももとは
もどらなくなることをいいます。へんけいしたりょうをばーせんとであらわします。

・あつしゆく せいけい、こんぷれっしょん せいけい

みかりゅうごむをあたためたかながたのきゃびていーにおいて、かながたをとじて、
かあつしてせいけいします。

・あんぜん かくにん

けがやじこをおこさないために、さぎょうやどうさをはじめるまえに
おこないます。

きかいをうごかすときやはものをつかうときはまわりのひとにちゅうい
します。

・あんぜん そうち、あんぜん きき

つうじょうじに、むいしきにせつびをとめるそうちです。

「らいとかーてんをさえぎる」、「まっとすいっちにのる」、「りみっとすいっちが
うごく」とせつびがとまります。さぎょうまえにてんけんし、しさこしょうをします。

あんぜんそうちをむこうにしてはいけません。

・いおう

さるふあー(Sulphur)です。かりゅうざいとしてもっともおおくしょうされます。

ごむのとくせいをつくるうえでじゅうようなはいごうざいりょうのひとつです。

・いざい

ことなるざいりょうがまじっているもしくはことなるざいりょうのことです。

ことなるざいりょうがまじらない、ことなるざいりょうをつかわないように、くぶん
ひょうじをして、せいそうとひろいこみぼうしをてっぺいします。

・いぶつ ふりょう

ごむざいりょう ではない ごみ などの ことなる もの が せいひん に こちゃくしたり、
こんにゆうしたり したも の です。

・いぶつ こんにゆう

ごむざいりょう や せいひん に はいごうざい いがいの もの が まじる こと です。

・いんなー

たいや の くうき や がす を ふうじこめる ぶざい で、おしだし かこう で つくりま す。

・うえんど、うえんどらいん

きやびていー の なかで ざいりょう の ながれ が ぶつか る ところ に できる せんじょう の
もよう です。うえんど の きょうど が ひくい と、そこから われる こと も ありま す。

・うおーみんぐ

せつび や かながた、だい(くちがね) を あたためる こと を いいま す。

・うちだんどり

せいさん せつび を とめて おこなう だんどりがえ です。

・うちぬき かこう

ぬきがた と ひらいた の あいだ に ごむ の しーと を はさみ、ぬきがた を うえ から
おしあて て かたち を うちぬく かこう です。

・うちぬきば

しけんへん を うちぬく ため の はも の で、いろい ろな かたち が ありま す。

・えあー ふりょう

ざいりょう に くうき が はいり、ひょうめん が ふくらんだ もの で なか は くうどう です。

・えきたい ふうにゆうしき ぼうしんごむ

ちゆうくう の ごむ に えきたい を いれて、えきたい の ねんせい を りようした ぼうしん
ごむ です。

・えらすとまー

「ちから を くわえる と へんけい するが、ちから を とりのぞく と もの かたち に
もどる」せいしつ の「だんせいたい」の こと です。

・えんじん まうんと

じどうしゃ ぶひん に おおく つかわれる ぼうしんごむ です。

えんじん を ささえて しんどう を ちいさくする と ともに しんどう が つたわる こと を
ふせぎま す。

・おいる

ごむ を やわらかくし、 はいごうざい の ぶんさん を よくして、 ねり、 あつえん、
ちゅうにゆう、 おしだし などの かこうせい を よくします。

ぶりーど や いこうせい に ちゅうい します。

・おうりよく

しけんへん に くわわる ちから を しけんへん の だんめんせき で わった あたい です。

・おーとくれーぷせいけい

たいあつかん の なかに かあつ ぐうき を おくりこみ、 ぐうき を かねつして かりゆう
します。

・おしだし かこう

ごむざいりょう を だい(くちがね) へ あつりよく を かけて、 れんぞくてきに しょてい
けいじょう にする かこうです。

いっぱんてきな こうてい では おしだされた ごむ は かりゆう そう を とおり、 ひきとり
そうち で れいきやく こうてい、 かつと こうてい に おくられます。

すくりゅー の かいてん そくど と ひきとりそうち の ひきとり そくど は ひんしつ に
おおきく えいきょう します。

かつと き の はもの による せつそう じこ に ちゅうい します。

・おせん

ねつ や あつりよく により、 ごむ から だた はいごうざい が あいてぶつ を よごす こと
です。

かぐについた ごむ の すべりどめ や ごむまっと など により ゆか が へんしょく したり、
じどうしゃ の どあごむ により しゃたい の とそう が へんしょく することが あります。

・おふせんたー ふりょう

たいや の ぶざい が ちゅうしん を はずれて、 かたよっている こと です。

・おーりんぐ

だんめん が えんけい(おーのかたち) を した りんぐ けいじょう の ぱっきん です。

<かぎょう>

・かーかす

たいや の こっかく の ぶざい です。

ごむ で こーていんぐ した せんい や すちーる わいやー を たばねて かさねます。

・かーぼん ぶらっく

せきゆ や がす を もやした すす(たんそ の びりゆうし) で、くろいろ の こまかな つぶ です。

ごむ に まぜると つよく、すりへり にくくなり、にっこう による れっか も ふせぎます。

とりあつかう ばしょ は かんき をして、ぼうじん ますく を つけて さぎょう します。

・がいかんけんさ

5かん(め、みみ、はな、した、ひふ) を つかって ひんしつ を はんてい する かのう けんさ です。がぞう しょり により きかいてき に はんてい する ほうほう も あります。

※ふりょうひん を そのば で てなおし しては いけません。

・かいぜん

げんじょう に まんぞく しないで、じぶん で もんだい を みつけて、より よい じょうたい へ へんか し つづける ことです。

・かかりゆう、かりゆうもどり

さいてきかりゆう を こえた かりゆうじょうたい です。やわらかくなり、きょうど も さがります。

・かき げんきん

ごむ や はいごうざい は もえやすく、きえにくい ので、ほかん ばしょ や しょう ばしょ に ひ が できるもの を もちこんでは いけません。

・かきよう

ごむ を かがく はんのう で はし を かけた ように つないで、せいしつ を へんか させる ことです。

・かけ ふりよう

けいじょう の いちぶ が なくなっている こと です。

とくに かどぶ が かけやすい です。

・かけふだ

せつび の てんけん や しゅうり を おこなっている こと を しめす ひょうしき(ふだ) です。

せつび の でんげん を 入れる などの そうさ をしては いけません。

・かこう じょうけん

ひょうじゆんしよ に きめられた おんど や じかん、あつりよく など です。

あんぜん、ひんしつ、せいさんせい を さいてき に する すうち なので、かつてに かえては いけません。

・かこうせい

ごむ や はいごうごむ の ごむよう かこうき での かこう の しやすさ です。

・がすけつと

せいし する めん に つかう しーる です。

・かた

ごむ の りゅうどうせい を りょうして、おしひろげる、ながす、つうかさせる などし、れんぞくして どういつ けいじょう に かこうする ものです。

おしだしかこう : だい(くちがね)

せいけいかこう : かながた (うわがた、したがた、なかがた)

こんねりあつえんかこう : ろーる

ふくごうせきそうかこう : どらむ、しんがね

※かた が しまる とき や うごく とき には、ぜったいに て を 入れては いけません。

・かたずれ ふりょう

かながた の あわせ が ずれて、せいけいひん が へんけい しています。

・かたづけ

さぎょう が おわったら、つかった もの は きれいに そうじ を して、もとの ばしょ (てい いち) に もどします。その とき に だた ごみ は ぶんべつ を して すてます。

・かたない の よごれじよきよ

かりゅう による がす や ごむかす が かた の ひょうめん に ふちやくして よごれます。

よごれ は だっけいさぎょう、かこうひん の がいかん や すんぽう を そこないます。

かた に きず を つけないように、つぎの ぶい の よごれ を じゅうてん に とりのぞきます。

おしだしかこう : みかりゅうごむ の りゅうろ

せいけいかこう : みかりゅうごむ の りゅうろ および きやびてい

こんねりあつえんかこう : ろーる、らばーよけ の ひょうめん

ふくごうせきそうかこう : どらむ、しんがね の ひょうめん

・かた の てんけん

ひんばん や ひんめい を かくにん します。

きず や よごれ、ごむかす の こちやく が ないこと を かくにん します。

・かたよごれ ふりょう

きやびてい に こちやくした よごれ の あと で、せいひん が へこんで います。
てんけん が おわった よい かながた を しんちょう に あつかいます。

・かながたせんじょう

かながたない の よごれ を やくひん で あらったり、かたい ちいさな つぶ を ぶつけて
はがし たり します。

かながた が せいけいき に とりついた じょうたい で、せんざい による ふきとり や
そうじごむ を しようする ことで せんじょう を すくなくする ことが できます。

・かりゅうかん

まるい つつがた の たいあつかん です。かん の なかに みかりゅう の かこうひん を
いれて、かあつした じょうき や かねつした くうき(がす) で かりゅうします。

・かりゅうざい

かねつ など により、かきょうする はいごうざい です。

・かりゅうしけん

みかりゅうごむ に ねつ や ちから を くわえて、かりゅうおんど や かりゅうじかん などの
さいてき かりゅう じょうけん を ひょうかする しけん です。

・かりゅうせつちやく

みかりゅうごむ と いんさーと(きんぞく や ぷらすちっく の ぶひん) を、かた で ねつ
と あつりよく を かけて かりゅうして せつちやくする こと です。

あらかじめ いんさーと の ひょうめん に せつちやくざい を ぬります。

・かりゅうそくしんざい

かりゅうじかん の たんしゆく、かりゅうおんどの ていおんか、かりゅうざい の げんりょう、
せいひん の ぶっせい こうじょう を はかります。

・かりゅうぶそく

さいてきかりゅう に とうたつしていない かりゅうじょうたい です。そのぶぶん が ふくらんで、
ないぶ に ちいさな きぼう が できたり、かたさが でない などの ふぐあい となります。

・かれんだー

たいや で ごむ の しーと と でいっぴんぐこーど を はりあわせる かこう です。

・かれんだー しゅうしゆく

かれんだー かこう で うすく のばされた ごむ が のばされた ほうこう に たいして ちぢむ
こと です。

・かれんだーたん

たいや の かれんだー した ぶざい を ろーるじょう に まいた もの です。

・かれんだーろーる き

2ほん いじょう の ろーる の あいだ に ざいりょう を 入れて かいてんさせ、うすく のばします。

・がんりょう

ごむざいりょう に いろ を つける はいごうざい です。

いろいろな いろの ごむ(からーごむ) は、かーぼんぶらつく の かわりに ほわいとかーぼん など で ほきょうして、がんりょう で いろ を つけます。

・きず ふりょう

かた の きずあと や ばりきり はさみ など による きりきず や すりきず が げんいん で ふりょう と なります。

・きゃびていー、きゃび

かながたない の せいひん を かたどった かうかん です。

1つ の かながた に いくつか の きゃびていー を つくり、1しよつと で たくさんの せいけいひん を つくります。

・きゅうていし そうち

ろーるき での さぎょうで ひじょうじ(きんきゅうじ) に、いしきてき に ろーる の かいてん を とめる ための そうち です。

「ろーぷ すいっち を ひく」、「ばー すいっち を おす」、「ぼーど すいっち を ける」と ろーる の かいてん を とめること が できます。

・きゅらすと めーたー、れお めーたー

ごむ の こうか を そくていします。

ごむ が ただしい はいごう か、ぶんさん ふりょう が ないか、さいてきかりゅう で あるか を はんてい できます。

ねり の ろつと ごと に そくてい して、ごうひ を はんてい します。

・きんぞくせい ちよくじゃく、こうじゃく、かなじゃく

そくてい ぶつ に みつちやく させて、め の いちを しょうめん にして あたい を よみとります。

0 が はし に あり、すりへっている ばあい は ここ を きてん と しては いけません。

さいしょう めもり いか は めぶんりょう で よみとります。

・くぶんひょうじ

しかかりひん と かこうすみひん、 みけんさひん と けんさすみひん、 りょうひん と ふりょうひん など、もの の じょうたい を くわけ して ひょうじ します。

・ぐりーん たいや

たいや の かーかす、 べると、 とれつど、 びーど など の ぶざい を はりあわせて つくった たいや の げんけい です。

「なま たいや」とも いわれ、 かりゅうする まえ の たいや です。

・ぐりーんきょうど

げんりょうごむ や みかりゅうごむ の つよさ で、 ひつぱり しけん により ひょうかします。 かりゅう まえ の かこうせい に えいきょうします。

・くれーじんぐ

ひかり により れっかして、 ごむ の ひょうめん に おおくの ちいさな ひびわれ が できた じょうたい です。

・けいじょうしあげ

せつび による かこう で つくった かこうひん を せいひん に するために おこなう かこうです。

あとこうてい の ようきゅう に おうじて、 きめられた すんぽう および けいじょう に します。

おしだしかこう : ながさ さいだん(せつだん)

せいけいかこう : さいだん や ぱりとり(てむしり や こうぐ による せつじょ)

こんねりあつえんかこう : しーとはば さいだん

ふくごうせきそうかこう : さいだん、 じょいんと てなおし

・げーと、 ちゅうにゅうげーと

みかりゅうごむ が きゃびていー に はいる いりぐち の つうろ(りゅうろ) です。

・けんさいん

「けんさいん しかく にんてい ひょうか」に ごうかくして とうろく された ひと です。

ていき に ひょうか を おこない、 しかく を こうしん します。

・げんど みほん

けってん の 「どこまで を ごうかく と するか」を しめす かこうひん の みほん です。

・こうてい ない けんさ

じぶん が かこうした もの の がいかん や すんぽう などの できばえ を かくにん します。

・こうど

ごむのかたさは「こうど」としてすうちであらわします。

すうちはそくていきのしゅるいによりことなります。

・こうどけい

はりやはんきゅうのかたちをしたとつきぶつによるへこみりょうをはかります。

はかるせいひんにおうじたこうどけいをせんでいします。

こうどけいをせいひんにあて、まうえからせいひんにおしつけます。

こうどけいとせいひんがあたってから、いっていじかんごのあたいをよみとります。

・5S

①せいり(Seiri) : いるものといらぬものをわけて、いらぬものをすてます。

②せいとん(Seiton) : とりだしやすいように、きめられたばしょにおいてひょうじします。

③せいそう(Seiso) : きれいにそうじをしながら、みのまわりをてんけんします。

④せいけつ(Seiketsu) : きれいなじょうたいをつづけます。

⑤しつけ(Shitsuke) : きれいにつかうことをあたりまえとします(しゅうかんづけ)。

・こくさいごむかたさ、IRHD

しけんへんにとつきぶつをいっていのちからでおしつけたときのへこみりょうです。

はかるもののかたさにより、とつきぶつのおおきさとおしつけるちからをかえます。

・こなづけ

ひょうめんのねんちやくをふせぐために、こなをふりかけることです。

・ごみのぶんべつ

しょくばのきまりにしたがってごみをわけてすてます。

・ごむのしゅるい

てんねんごむ : ごむのきからとれるじゅえき(らてつくす)からつくられます

ごうせいごむ : せきゆ(なふさ)からつくられます

・ごむのせいしつ

へんけいしてももとのかたちにもどります。(のびちぢみします)

おんどがたかいとやわらかく、のびやすいです。

ちようきかんつかうとかたくなり、のびやちぢみがていか(れっか)します。

しょうげき や しんどう を ぶんさん(きゅうしゅう) します。

みず や おと の もれ を ふせぎます。

・ごむ の ようと

てんねん ごむ : たいや、はきもの、ほ一す、べると など に つかわれます。

ごうせい ごむ : いろいろな ごむ が あり、さまざま な ようと に つかわれます。

・ごむこ

ごむせいひん を くだいた もの で、その おおきさ により よびな が ことなります。

ごむびふんまつ : 0.1mm いか

ごむふんまつ : 0.1mm~1mm

ごむペれつと : 1mm~10mm

ごむちっぷ : 10mm~50mm

・ごむししょう

じょうげ の こうぞうぶつ の あいだ に せつちし、じょうぶ を ささえる とともに、おもに じしん など の よこゆれ を きゅうしゅう する ごむせいひん です。

・ごむびき

ごむ を ぶざい に がんしんさせる ことや ひょうめん に ひふくすること です。

・ごむびきふ

ぬの に ごむ を ぬりかさねて かりゅうした しーと です。

・ごむらいにんぐ

ごむ を こんくりーと や きんぞく に せつちやくし、ひょうめん や ないめん を おおう こと です。つかわれかた に てきた ごむ を えらんで、ふしよく や まもう から まもります。

・こんねり あつえん かこう

こんねり : げんりょう ごむ に いろいろな やくひん を きんいつ に ぶんさん させます。

あつえん : こんねり された ざいりょう を うすく のばします。

ろーる そうち の かいてん による まきこまれ じこ に ちゅうい します。

・こんねりき

ませる、つぶす、ねる、つく など を どうじに おこない、ごむ と はいごうざい を きんいつ に ぶんさんさせます。

・こんぱうんど、はいごうぶつ

ごむげんりょう に はいごうざい を まげた みかりゅうごむ です。

<さぎょう>

・さーじんぐ、みやくどう

ざいりょうのおしだしにむらがあり、だいからでたおしだしひんがおおきななみ(surge)のようにうねることです。

おしだしひんのけいじょうやすんぽうがばらつきます。

・さいせいごむ

かりゅうしたごむにねつやちからをくわえたり、やくひんでしよりしたりしてかそかしたごむです。

・さいだん(せつだん)

ざいりょうやかこうひんをれんぞくしてちよくせんてきにきります。

かたできりぬいたり、きよくせんできることもあります。

・さいてきかりゅう

ごむせいひんにようきゅうされるせいしつをまんぞくするかりゅうじょうたいです。

ただしざいりょうをてきせつなじょうけんでかこうします。

・さいど、さいどうおーる

くるまをささえてたわむたいやのぶざいでおしだしかこうでつくります。

せいけいかこうでしょうひんめいやさいずをいれます。

・ざいりょうのてんけん

ひんめいやばんごうがただしく、しょうきげんいないで、しけんにごうかくしていることをかくにんします。

かたちやすんぽうがただしく、いぶつのこんにゆうがないことをかくにんします。

てんけんがおわったまちがいのないざいりょうをしょうします。

・ざいりょうのよびかた

ざいりょうはかこうこうていでつかうけいじょうにより、いろいろなよびかたがあります。

せいけいかこう：ばうえるだま、たんざく(こんぷれっしょんせいけい)

しーと、ざぶとん(とらんすふあーせいけい)

りぼん(いんじえくしょんせいけい)

おしだしかこう：りぼん、ペれっと、ねりきじ、てーぶざい

・ざいりょうきょうきゅう、ざいりょうとうにゆう

かながた や かこうき の きめられた ぶい に ざいりょう を いれます。

せいさん に あわせて とぎれること なく きょうきゅう しなければ いけません。

・さきいれ さきだし

ほかんした ざいりょう や かこうひん は、ふるいもの から じゅんぱん に つかいます。

さき に いれた もの を さき に だす、FIFO(First-In First-Out) と も いわれます。

・さぎょう の ころがまえ

あんぜん、ひんしつ、せいさんせい を よくすること を ころがけて ください。

①あんぜん な さぎょう

②かくじつ な さぎょう(よい ひんしつ)

③じゅくれん した さぎょう(たかい せいさんせい)

・さぎょうば

2S(Seiri, Seiton) が きほん です。

①せいり : いるもの と いらぬものを わけて、いらぬものを すてます。

②せいとん : いるものを とりだしやすい ように、きめられた ばしょに おいて ひょうじ
します。

・しーる

もの と もの の あわせめ や つぎめ から えきたい や きたい が そとへ もれる こと
や そとから なか へ はいる こと を ふせぐ せいひん です。

・じこうぐ

じぐ と こうぐ を あわせて じこうぐ と いいます。

じぐ : かこう や くみたて など を てだすけし、どうさを あんない する ものです。

こうぐ : かこう する どうぐ や きかい です。

おしだしかこう : めりーかつたー、らしゃばさみ、さいだんじぐ など

せいけいかこう : にっぱー、はさみ、うちぬきじぐ など

こんねりあつえんかこう : ないふ、はさみ、さいだんじぐ、はかり など

ふくごうせきそうかこう : ほつとめす、すてっちゃーろーらー、かつたーないふ、
はさみ、はんどろーらーなど

・じこうぐ の てんけん

じこうぐ が こわれて いたら、しごと ができません。けが を すること も あります。

は の かけ や うごき を かくにん します。

てんけん が おわった よい じこうぐ を ただしく つかいます。

・じこうてい かんけつ

「わるいものをまえのこうていからうけとらない、じぶんのこうていでつくらない、あとのこうていにおくらない。」という、せいさんせいこうじょうのとりくみです。

・しき ころしょう(ゆびさし ころしょう)

あんぜんのいしきをたかめて、まちがいやみすをなくし、じこをふせぐためのとてもよいしゅだんです。

てんけんするかしよをしっかりとみて、ゆびをさして、おおきなこえで

「〇〇〇よし！」

・じどうしゃ ぶひん

ごむせいひんはおおくのじどうしゃぶひんにつかわれています。

せいけいかこうせいひん

ぼうしんごむ：えんじんまうんと、さすぺんしょんぶつしゅ、だんぱーなど

しーるごむ：おいるしーる、こねくたーしーる、えんじんかばーなど

おしだし かこうせいひん

ほーす：ねんりょうけい、みずけい、くうきけいなど

しーるごむ：うえぎーすとつぷ、がらすらんちゃんねる、とらんくりつどなど

ふくごうせきそう かこうひん

たいや：ちゅーぶれすたいや、すたつどれすたいや、らんふらつとたいやなど

でんどうべると：Vべると、たいみんぐべると、へんそくべるとなど

・しみだし

ひょうめんをひふくしたごむざいりょうがうらめんのにじみでることです。

・しゃくかいざい

ねるちからやねつによりごむがやわらかくなることをはやくするはいごうざいです。

・しゃしゅつせいけい、いんじえくしょんせいけい

みかりゅうごむをしゃしゅつせいけいきでかねつしてとじたかながたにあつにゅうしてせいけいします。

・じゃすと いん たいむ(Just-In-Time)

ひつようなものを、ひつようなときに、ひつようなかず(りょう)つくることです。

・じゅうてんりつ、ふいるふあくたー

こんねりきのようりょうにたいする、とうにゅうするざいりょうのようせきのひりつです。

・じょいんとてなおし

たいやの かーかす、べると、とれつどなどの かくぶざいを どらむに まきつけて、たんぶをあっちゃくしたぶぶんの さゆうの ずれやうきを しゅうせいします。

・じょいんとれすばんど

いくつかのたいやこーどをとつぴんぐしたてーぶじょうのぶざい です。
くうきいりたいやにもちいられ、ふくらみけいじょうをちょうせいして、こうそくたいきゅうせいをこうじょうさせたり、のいずをていげんします。

・しろうきげん

せいじょうなぶつせいやかこうせいをたもつことができるきかんです。
たいようのひかり、ねつやすいぶんによりれっかします。

・しよつと

かながたによるせいけいかこうさぎょうの1かいぶんのこと です。

・すくらつぷごむ

ふようになつたごむせいひんやみかりゅうごむです。
せいぞうかていではっせいしたくず、ふりょうひんやばりなどがあります。

・すくりゆー

おしだしきのらせんのみぞがあるぶひんです。
かいてんしてみかりゅうごむをねりながらまえへおしだします。

・すこーち

ごむざいりょうがほかんちゅうなどかりゅうこうていのまえにかりゅうしてしまうこと
です。

だんせい がまして、しよていのけいじょうにかこうすることができなくなります。

・すこーちたいむ、むーにーすこーち

ごむはいごうぶつはかねつするとやわらかくなり、ねんどがさがります。
さらにかねつするとかりゅうしてかたくなり、ねんどがあがります。
ねんどのさいていちからしよていのねんどにあがったじかんのこと です。

・すていっきー

ごむがべとついていること です。

・すとれーなー

ごむざいりょうにふくまれるはいごうざいのかたまりやいぶつをとりのぞくそうち
です。

・すねり

ごむをだんせいがつよいじょうたいからかそせいがつよいじょうたいにします。
ねるちからとねつでやわらくして、はいごうざいをまざりやすくします。

・すばいだーらいん

ごむざいりょうがおしだしきのなかですばいだーによりさえぎられたあとがおしだしひんにのこったすじ(しまもよう)のことです。

ざいりょうのゆうごう(とけあう)ふりょうです。

すばいだーとはだいをささえるふぶんで、かたちがかもににているので「すばいだー」といいます。

・すばいらるほーす

ないそうごむのそとがわにほきょうざい(いとやきんぞくわいやー)をらせんじょうにまきつけたほーすです。

・すぴゅー

たいやのとれつどやしよるだー、さいどにあるひげのようないとじょうのほそいごむを「すぴゅー」といいます。

かながたのくうきぬきのちいさなあなからくうきがぬけるさいに、ごむがふきだし(spew)てできます。

・すぷーる

しゃしゆつせいけいきからでたみかりゆうごむがかながたないにながれこむさいしよのつうろ(りゆうろ)です。

・すぽんじごむ

れんぞくきほうのごむです。

・すんぽうけんさ

せいひんのおおきさがきじゆんしよどおりにつくられているか、そくていきをしようしてかくにんするさぎょうです。

そくていするこうもくとおおきさおよびこうさにてきた、そくていきをせんていします。

・すんぽうふりょう

ながさ、あつみなどのすんぽうがきめられたあたいからはずれているものです。

・せいけい かこう

あたためた かながた の なか に ざいりょう を 入れて かたち を つくります。

こんぷれっしょん(ちよくあつ)、とらんすふあー(ちよくあつちゆうにゆう)、いんじえくしょん(しゃしゆつ) の せいけい かこう ほうほう が あります。

こんぷれっしょん では ざいりょう の おきかた が ひんしつ に えいきょう します。

かながた の かいへい による はさまれ じこ に ちゆうい します。

かながた の ひーたー が きれると おんど が あがらず、かりゆう ぶそく に なります。

・せいけい しゆうしゆく

かながた で あっしゆくされた あつい ごむ が かながた から でて、ひえて ちぢむ ことです。

・せいそう

せいそう は きれい に する だけ でなく、つぎの ような もくてき が あります。

①いじょう に きづく(てんけん)

②よごれ や いぶつ こんにゆう を ふせぐ(ひんしつ)

③すべる、つまずく を ふせぐ(あんぜん)

・せきそうごむ

ごむ と ほかのざいりょう を かさね あわせて、かりゆうせつちやく した もの です。

・せつちやくざい

もの と もの を つないで ひとつ に する ざいりょう です。

ごむかこうひん の ひょうめん の あぶら や よごれ を とりのぞき かわかします。

ひょうめん を あらくしたり、したぬりざい を ぬると うまく せつちやく できます。

・せる

はっほうして できた きほう で、はしら(こっかく) と かべ(まく) で かこまれた ちいさな ぐあんの こと です。

・せんたーずれ

たいや の ぶざい の つなぎめ が さゆう に ずれています。

かーかす や べると を どりむ に まく ときに きじゆんせん を しっかり かくにん します。

・そくていき

もの の かたち、おおきさ、おもさ など を すうち で あらわす どうぐ です。

おしだしかこう : のぎす、きんぞくせい ちよくじゃく、とうえいき など

せいけいかこう : のぎす、はいとげーじ など

こんねりあつえんかこう : のぎす、きんぞくせい ちよくじゃく、だいやるしっくねすげーじ
けいりょうき(はかり) など

ふくごうせきそうかこう : まきじゃく、だいやるげーじ など

・そくていき の てんけん

ひんしつ を たもつ ために ひつよう で、こうせい ずみ の そくていき を つかいます。
がいかんの はそん、ぜろ てん や うごき を かくにん します。
てんけん が おわった よい そくていき を ただしく つかいます。

・そとだんどり

せいさん せつび を とめずに おこなう だんどりがえ です。

<たぎょう>

・だい、だいす、くちがね

おしだしき の ざいりょう の でぐち に とりつける かた です。

・たいこうせい

にっこう(ひかり)、おんど(ねつ)、しつど(みず) などの きこう による がいかん や
せいしつ の へんかに たえる せいのう です。

・だいすうえる

ごむざいりょう が だい から おしだされた ちよくご に ふくらむ こと です。

おしだしひん の だんめんけいじょう は だいの けいじょう よりも おおきくなります。

・たいやこーど

たいや の けいじょう を ほじする ための ほきょうざい です。

たていと と よこいと が「ひよけ の すだれ」の ように なった おりもの(きじ) です。

・だいやるしっくねすげーじ

ればー を ゆび で おしさげて、せいひん を はさんで あつみ を はかります。

ぜろてん を あわせたのち、せいひん を めんちよく に はさみます。

がいしゅう の さいしょうめもり は 0.01mm で、はり は とけいまわり に まわります。

ちいさな えん の さいしょうめもり は 1mm で、はり は はんとけいまわり に まわります。

・ためしかこう

せつび で さぎょう の はじめ に かこうひん(しょひん) を つくるとを いいます。

しょひん の できばえ を かくにんし、ふぐあい が なければ、つづけて かこう を
おこないません。

せいけい かこう、おしだし かこう、ふくごう せきそう かこう で おこなう さぎょうです。

・だんせい

へんけい させた ちから を とりのぞいた ときに、もとの かたち や すんぽう に しゅんじ に もどろう とする せいしつ です。

・だんどりがえ

かこうひん の しゅるい や、さぎょう を へんこうする ときの まえじゅんび です。
ひょうじゅんしよ、ざいりょう、かた、かこうじょうけん の へんこう だけでなく、
さぎょうないよう の かくにん や せいそう も たいせつ です。

・だんどりがえ じかん

だんどりがえ に かかる じかん です。
だんどりがえ じかん を みじかくする くふう が たいせつ です。

・ちゅうけい せいけい

せいひん の もでる から すがたどり を して、しりこんごむ など の かた を つくります。
この かた に じゅしざいりょう を ながしこんで せいけいします。

・ちゅうにゅう せいけい、とらんすふあー せいけい

みかりゅうごむ を あたためた かながたじょうぶ の ちゃんばー(ぽつと) において、
かながた を しめつけると どうじに きゃびていー におしこんで せいけいします。

・ちゅーぶ、ごむかん

ほきょうざい は なく、ごむざいりょう で できた ちゅうくう の くだ(ぱいふ) です。

・ちょうせいさぎょう

ためしかこう で かくにんした できばえ に おうじて、ひょうじゅんしよ に したがって
かこう じょうけん を へんこう します。

・ちょーきんぐ

せいひん が ひかり や ねつ、みず によって れっかし、ひょうめん に じゅうてんざい
が でて、しろい こな を ふいた じょうたい です。

・つうろ

きめられた つうろ を つぎの きまり を まもって、あんぜんにとおります。

①はしりません

②ちかみち を しません

③ぼけつと に て を いません

④すまほ や けいたいでんわ を しません

⑤おしゃべり を しません

・でいっぴんぐ

えきじょう の ごむげざいりょう に ふくしざい や かた を つけこみ、ひきあげたのちに かねつ かんそうして かためます。

・でいっぴんぐコード(でいっふたん)

たいやコード に せちやくざい を とふして、ごむざいりょう を でいっぴんぐ したものです。

・でいらいと

せいけいき や さいだんき などの こていばん と かどうばん の きより です。

・でゆるめーたー かたさ

しけんへん に とつきぶつ を おしつけた ときの へこみりょう です。

はかるもの の かたさ により、でゆるめーたー の たいぷ(しゆるい) を かえます。

・てんけん

よごれ や きず、あぶら や みず もれ、おかしな おと が しないか など、ひとつ ひとつ ていねい に かくにんし、しきこしょう して、けっか を きろく します。

まいにち、しぎょうまえ に てんけん します。

・どくりつきほう、くろーずどせる

せる(きほう) が かべ(まく) で しきられて、せる と せる が つながっていない じょうたい です。

・とそう

ひょうめんしよりの ひとつで、せいひんの ひょうめん に とまく を つくる ことです。

つや を だす、れっか や へんしよく を ふせぐ などの ために おこないます。

ごむ は しろいので、くべつする ために いろ の しるし を つける こともあります。

・とめる よぶ まつ

「いつもと ちがう、おかしい？」と おもったら、さぎょう を しては いけません。

①さぎょう を とめます。

②じょうし を よびます。

③じょうし が くるまで まちます。

・とれっど

たいや の ろめん に せつする ぶざい で おしだし かこう で つくります。

せいけい かこう こうてい で いろいろな みぞ や きれこみ を 入れます。

<なぎょう>

・7つのむだ

おきやくさま にとっての かけ(ふかかけ) が ない さぎょう

①かこう の むだ : もの の すがたかたち を ひつよう いじょうに かえる むだ

②ざいこの むだ : もの を ていたい させる むだ

③つくりすぎ の むだ : もの を ひつよう いじょうに つくる むだ

④てまち の むだ : もの の すがたかたち を かえない じかんの むだ

⑤どうさ の むだ : もの の すがたかたち を かえない うごきの むだ

⑥うんぱんの むだ : もの の いち を かえる むだ

⑦ふりょうてなおしの むだ : もの を まちがった すがたかたち に かえる むだ

・にじかこう

かりゅう を おえた かこうひん に あらためて べつの かこう を おこなう ことです。

ごむしーと の りょうめんと一ふはりかこう や うちぬきかこう、しーるごむ の じょいんと かこう や たんまつかこう、ぼうしんごむ の しぼりかこう など があります。

・にじかりゅう

こうおん で ちょうじかん かねつする こと により、かこうひん に のこった はいごうざい など を とりのぞきます。

ぶっせい や すんぼう を あんていさせます。

・にちようひん

ごむひも、わごむ、けしごむ、すべりどめ など、いろいろな にちようひん に ごむ が つかわれて います。

・につぶ

2ほん の ろーる ひょうめん の かんげき(かんかく) の こと です。

・ぬのまきほーす

ないそうごむ の そとがわ に ぬの を まきつけた ほーす です。

・ねつばん

ねつ と あつりよく を かながた に くわえる きんぞくの あついいた です。

・ねりひんしつけんさ

こんねりされた ごむざいりょう の むーにーねんど や かりゅうとくせい、および ひじゅう や こうど といった ぶっせい を しけん ひょうか します。

・ねんせい

へんけい させた ちから を とりのぞいた ときに、 もとの かたち や すんぽう に もどる までに、 じかん が おくれる せいしつ です。

・ねんだんせい

ざうりょう が へんけい した とき の ねんせい と だんせい の くみあわせ です。

しょうげき を きゆうしゆする(ながす) ねんせい と はねかえす(もとに もどる) だんせい の りょうほう の せいしつ を もつ こと です。

・ねんちやくりよく

もの と ものを くつつける ちから ですが、 はった ものを はがす ときに ひつような ちから の こと です。

ねんちやく とは すぐに くつつける こと が でき、 はがす こと も できる じょうたい です。

・のぎす

せいひん を はさみこんだ じょうたい から じょじょに ひろげたり ちぢめたり(せばめたり) して、 せいひん が おちるかおちないか の とき の あたい を よみとります。

※のぎす で はさむ ちからが つよすぎると せいかくに そくていが できません。

・のび、 のびりつ

しけんへん を ひっぱり、 もとの ながさに たいして のびた ながさを ぱーせんと で あらわした もの です。

<は ぎょう>

・ぱーていんぐらいん、 ぴーえる

うわがた、 なかがた、 したがた など に ぶんかつした かながた の あわせめん です。

・はいごうざい

せいひんに ひつような とくせい や ひんしつ を かくほする ため、 かこうせい の かいりょう や ぶっせい の こうじょう など を もくてき として、 げんりょうごむ に くわえる げんざいりょう の こと です。

・はいごうひょう

ごむ の じゅうりょう を 100 と して、 はいごうざい の じゅうりょう を あらわした ひょう です。

はいごうざい の てんかりょう を phr(per hundred rubber) で あらわします。

・ばいやす たいや

かーかす が ななめ(bias) こうご に かさねて はいち されている たいや です。

・はがれ

たいや の かーかす や べると などの せつちやくふりよう ぶい が はがれます。

・ばぎんぐ

ろーるき による こんねりさぎょう において、 しーとじょう に のばされた ごむざいりよう が ろーる に まきつかなくて、 うきあがる こと です。

・ぱっきん

おうふく や かいてん といった うごく めん に つかう しーる です。

・ばっち

1かい の こんねりさぎょう で せいさんされる ざいりよう の たんい です。

・ばっちおふ ましん

こんねりあつえん かこう で つくられた しーと や りぼん を ぼうちやくしより し、 ひやして かわかした のち、 きめられた ながさ に きって、 おりたたむ きかい です。

・はっぼうごむ

どくりつきほう の ごむ です。

・はっぼうざい

はっぼうごむ や すぽんじごむ の きほう を つくる きたい を はっせいさせる はいごうざい です。

・ばり

かながた の ぱーていんぐらいん から はみだした ごむ や ちゅうにゆうげーと の ごむ です。

・ばり しあげ、 ばり とり

とりのぞく ばり を かくにんし、 きめられた すんぽう に きります。

ばりきり よう の はさみ や にっぱー など を つかって かこう します。

せいひん を きらない よう、 きりすぎ に ちゅうい します。

・ばり とり わすれ

ばり が とり のこされた じょうたい です。

とり わすれ が ないように、 きめられた てじゅん で ばり を とります。

・ばり のこり

ばり が きり のこされた じょうたい です。

きり のこり が ないように、 きめられた ほうほう で ばり を きります。

・ばり ふちやく

ばりがせいひんなどについたじょうたいです。

けんさでばりとりわすれ、ばりのこり、ばりふちやくをみつけたら、ほりゆうひんはこにいます。けんさいんがてなおしをしてはいけません。

・ばんく

おしだしきのざいりょうのとうにゆうぶ(ほつぱー)やろーるきのろーるのかんげきにできるごむのかたまりです。

おしだしりょうをあんていさせて、すんぼうやけいじょうをたもちます。

・はんぱつだんせい りつ

くわえたちからとはねかえるちからのひをばーせんとであらわしたものです。

・ばんぴんぐ、ぶれっしんぐ

かりゆうのはじめのころにきゃびていーのくいきやがすをぬくために、かながたをみじかいじかんくりかえしあけしめすることです。

・びーど

たいやのかーかすのりょうたんをほいーるにこていするぶざいです。

すちーるわいやーをたばね、ごむでこーていんぐしてわっか(りんぐ)をつくります。

・びーどふいらー

たいやのだんめんがさんかけいのかたいごむのぶざいです。

びーどわいやーのうえにいて、びーどぶのかたちをととのえるとともにへんけいをおさえます。

・ひきさき つよさ

しけんへんをひきさくのにようするちからです。

うちぬきばはおもにきりこみなしのあんぐるがたをつかいます。

・ひじょう ていし そうち

ひじょうじ(きんきゅうじ)に、いしきてきにせつびをとめるそうちです。

「ぼたんをおす」とせつびをとめることができます。

・ひつぱり つよさ

しけんへんをひつぱってはだんさせるのにようするちからです。

うちぬきばはだんべるがたをつかいます。

・ひょうじゅんか

さぎょう ごとに ひつような こうもく を きめて、 むり なく ひんしつ を たもつ ことが できる きじゅん を きめる こと です。

ひょうじゅん と げんじつ の ちがいに きづいて、 かいぜん する ちゃんす が うまれます。

・ひょうじゅんしょ (さぎょう ひょうじゅん)

ぎじゅつ ひょうじゅんしょ、 さぎょう てじゅんしょ、 けんさ きじゅんしょ など があり、 きめられた ほうほう、 てじゅん を まもって さぎょう することが たいせつ です。

・ひょうめんしより

せいひん の ひょうめん を けんま、 とそう や かがくしより など により かこうする こと です。

はろげんかしより(えんそ)、 ふんまつしより(しりか、 たるく)、 こーていんぐしより(しりこーん、 ふっそ) は ごむせいひん の べたつき や こちゃく、 すべり を かいぜん します。

・ぴんほーる ふりょう

ざいりょう や せいひん の ひょうめん に できた ちいさな あな(へこみ) です。

・ふあいなるばっち、Bねり

ますたーばっち に かりゅうざい など を くわえて、 こんねりした ごむざいりょう です。

・ふくごう せきそう かこう

いろいろな ごむ の かこうひん(ぶざい) を はりあわせ、 かた(どらむ、 しんがね) に 入れて かねつ、 かあつ して かたち を つくります。

たいや の はりあわせ では かた(どらむ、 しんがね) の かいてん による まきこまれ じこ に ちゅうい します。

はりあわせぶ の いちずれ や はがれ は ひんしつ に えいきょう します。

・ぶだし、 しーていんぐ

ごむ を うすくして、 しよてい の あつみ と はば に のばす こと です。

・ぶっしゅがた ぼうしんごむ

ないとう と がいとう の 2つ の きんぞくせい の つつ の あいだ に ごむ を せつちやく もしくは あつにゆう した ぼうしんごむ です。

・ぶらだー、 かりゅう ぶらだー

かながた ない に そうにゆう された ぐりーんたいや を かあつ および かねつ する ごむ せいの じぐ です。

ぶらだーにかあつじょうきをいれてふくらませ、ぐりんーたいやをかながたにみっちやくさせます。

・ぶりーど

れっかではなく、ひょうめんにえきたいのはいごうざいがしみだして、つやがあり、べたついたじょうたいです。

・ふりくしよんこーていんぐ、ふりくしよにんぐ

かれんだーかこうでせんいにごむをひふくすることです。

・ふりくしよんひ

2ほんのろーるのひょうめんそくどをくらべたあたいです。

・ぶるーふいんぐ

えきたいのとうかをふせぐためなど、ぬのをほごするためにごむざいりょうをひふくすることです。

・ぶるーむ、ぶるーみんぐ

れっかではなく、ひょうめんにはいごうざいがでてしろくなるじょうたいです。

たいこうせいやすべりせいをこうじょうさせるこうかがあるので、あえてぶるーむさせたごむせいひんもあります。

・ふれーかーふれーと

すくりゆーのせんたんのだい(くちがね)のあいだにかなあみとともにとりつけるたくさんのあながあいたきんぞくのまるいいたです。ねりがよくなります。

・ふれーどほーす

ないそうごむのそとがわにほきょうざい(いとやきんぞくわいやー)をあみくみしたほーすです。

・ふれすき、かりゅうふれすき

かながたをかあつするねつばんをそなえたそうちです。

・ふろすていんぐ

おぞんによってれっかし、ひょうめんのつやがなくなるじょうたいです。

ちょーきんぐとにしています。

・ぶんさん

ごむにはいごうざいをこまかくひろくちらすことです。

・べると、ぶれーかー

たいやの とれつど と かーかす の あいだ に ある ほきょう ぶざい です。
すちーるべると に ごむ を あっちやく して つくります。

・へんけい ふりょう

せいひん を あつい うち に かさねると、ごむ の へこみ や まがり、そり になります。
かなぐ(いんさーと) に つよい ちから を くわえた ばあい も へんけい します。

・へんしん

たいや の かたち が じょうげ や さゆう で ひたいしょう です。
たいや ないぶ で びーど や べると が はくり したり、きれたり して かたち が くずれ
ます。

・ぼいど ふりょう

せいひん の なか に できた おおきな こうどう です。

・ほう れん そう

「ほうこく、れんらく、そうだん」を「ほうれんそう という やさい」に かけた りやくご です。
しょくば の こみゆにけーしょん を はかる ために たいせつ な こと です。

・ぼうじゅん

ごむ ざいりょう や せいひん を ながい じかん あぶら や やくひん に つけたり、じょうき
に さらす と、たいせきが ぞうか して やわらかくなる げんしょう です。

・ぼうしんごむ

しんどう が つたわる こと を ふせぐ せいひん です。
「ぼうしん、かんしょう(しょうげき きゅうしゅう)、ぼうおん」の きのう が あります。

・ぼうちゃくざい

みかりゅうごむ が くつつく こと を ふせぐ やくざい です。
こな の ぼうちゃくざい が おおく つかわれて いますが、とびちる こと を ふせぐため に
えきたい の ぼうちゃくざい に かわって きています。

・ほーす

がいそうごむ、ないそうごむ と ほきょうざい で こうせい される ちゅうくう の くだ(ぱいぷ)
です。おしだしせいけい により つくられます。

・ほごぐ(あんぜん えいせい ほごぐ)

つぎの ような こじん よう ほごぐ(Personal Protective Equipment) が あり、さぎょう ちゅう
の じゅうだいな けが や びょうき から からだ を まもります。

あたまをまもる : へるめっと、ぼうし
めやかおをまもる : ほごめがね、ほごめん(しーるど)
みみをまもる : みみせん、いやまふ
のどやはいをまもる : ぼうじんますく、ぼうどくますく
うでをまもる : ながそでのさぎょうふく、うでかばー
てゆびをまもる : ぐんて、たいせつそうてぶくろ、かわてぶくろ
あしをまもる : あんぜんぐつ、こうぷろてくたー

つかうまえに てんけん して、よいものをただしくつかいます。

ほごぐは かならず みにつけて、ぜったいに はずしては いけません。

<まぎょう>

・まきむしかりゅう

おしだしかこうされたみかりゅうひんをまきとって、とれいにのせてえんとうけいのたいあつかんのなかでかあつじょうきでかねつします。

・ますたーぱっち、Aねり

かりゅうざいいがいのはいごうざいとげんりょうごむをこんねりしたざいりょうです。

・まもう

ごむがせつしょくしているあいてぶつのちいさなおうとつにあわせてへんけいし、くいこんでひきちぎられることです。

はぐるまのかみあわせのようなものです。

・みえるか

「だれでもひとめみてわかるさぎょうばにする」とりくみです。

もんだいのあるところがみんなにみえるようになり、ひとりひとりがひんしつのはやしあしや、せいさんのすすみぐあいなどのもんだいにきづいて、かいぜんするちゃんすがうまれます。

・むーにーねんど

げんりょうごむやこんぱうんどのながれやすさをあらわすあたいです。

むーにーねんどけいにより、よねつごのしよていじかんごのあたいをよみとります。

・めやに

やけたごむざいりょうがだい(くちがね)のでぐちについてかたまつたものです。

せいひんのひょうめんにきずやすじをつけてしまいます。

・めんしんごむ

じしんのゆれをゆっくりしたおだやかなゆれにかえるせいひんです。

ごむときんぞくばんをこうごにかさねあわせてつくりま

<やぎょう>

・やけごむふりょう

くろいろのぶつでごむがやけた(すこーち)ものです。

・ゆうきようざい

ものをとかすためにかがくてきにつくられたえきたいです。

どくとくのにおいがあり、ゆうがいせい(どくせい)やきけんせい(いんかせい)があります。

とりあつかいには、じゅうぶんちゅういしてください。

・ゆかめん

つまずきやすべりによるてんとうをふせぐため、つぎのことにちゅういします。

①だんさやけいしゃ

②でこぼこやひびわれ

③らっかぶつ(せいひんやざいりょう)

④みずぬれやあぶらもれ

⑤くつひものゆるみやくつぞこのすりへり

・ゆにふおみてい

たいやがきんいつでないことです。

たいやはいろいろなざいりょうをふくごうせきそうしてつくられるため、すんぽう、じゅうりょう、ごうせい(へんけいのしにくさ)がぶぶんてきにことなります。

そのぶぶんをたいやのそくめんにしるしをつけてひょうじします。

きいろのまるじるし：「けいてん」といいます。

たいやぜんたいのなかでもっともかるいぶぶんです。

あかいろのまるじるし：「ゆにふおみてい—ま—く」といいます。

たいやのがいしゅうがもっともおおきいぶぶんです。

<らぎょう>

・らじある たいや

かーかす が ほうしゃじょう(radial) に はいち されている たいや です。

・らっぴんぐ

「らっぷ」とよばれる すいへの だい と かこうひん の あいだに けんまざい を いて、 ちから を かけながら こすりあわせて けんま する かこうほうほう です。 ひょうめん が なめらかで へいたん になり、 すんぽう せいど が あがります。

・らばーよけ (よせいた、 はーと)

ろーる に まきついた ごむ を ろーる から はがして、 うちがわ に よせる いた です。

・らんなー

すぷーる の つぎ に みかりゅうごむ が ながれこむ つうろ(りゅうろ) です。 きゃびていー が 2つ いじょう ある ばあい、 ざいりょう は らんなー で わかれます。

・りけいざい

ごむ が かながた から はなれやすくする ための やくざい です。 あらかじめ かながた に とふしたり、 ざいりょう に はいごうします。

・りさいくる

ごむ の ばり や ふりょうひん を さいりょうすること です。 こまかく ふんさいして せっちゃやくざい で かためて せいひん を つくります。 ねつや やくひん で しよりして、 げんざいりょう として しょうできる みかりゅうごむ に もどします。

・りさいくるごむ

すくらっぷごむ の なかで さいりょう できる ごむ です。

・りょう ぶそく ふりょう

ざいりょう が たりなくて、 せいけいひん の かたち が できて いません。

・れーざーまーかー(いちぎめ れーざーらいん)

たいや の ぶざい に れーざーこう を しょうしゃ して、 いちぎめ らいん と します。

・れっか

ごむせいひん の きのう や せいしつ が、 じかんの けいか や かこくな かんきょう に さらされて ていかする げんしょうです。

その げんいん は ねつ、 ひかり、 おぞん、 やくひん など さまざま です。

ごむ では、 ろうか と れっか は くべつ なく つかわれます。

・れんぞくかりゆう

れんぞくして おしだされる みかりゆうひん を とくべつな かねつそうち の なか を とおして かりゆうする こと です。

・れんぞくきほう、お一ふんせる

せる(きほう) の かべ(まく) が こわれて、 せる と せる が つながっている じょうたい です。

・ろうか

ごむせいひん が じかんの けいか と ともに、 もろくなったり、 ひょうめん に きれつ が はいったり、 ねばつき が できる げんしょう です。

おもな げんいん は くきちゆう の さんそ による さんか です。

・ろうかぼうしざい

さんそ、 おぞん、 ねつ、 ひかり など による、 こうか や なんか、 ぶっせいの ていかを ふせぎます。

・ろーる き (お一ふんろーる き)

2ほん の ろーる で ごむげんりょう と はいごうざいを ねりこむ きかい です。

へいこう に ならべた 2ほん の ろーる に ごむ を まきつける ので、 さぎょうしゃ が ごむ の じょうたい を め で みる こと が できます。

てゆび が ろーる に まきこまれ たり、 ないふ で きらない ように さぎょう くんれん します。

①にぎりこぶし で ろーる の だぶりごむ を おす。

②てゆび は ろーる の めんちょう より おくにもっていかない。

③ごむ を きる ときは ないふ を ろーる の した に あててから まきて を うえに おく。

④ごむ が ろーる から はがれない ときは ろーる を とめて から はがす。

⑤かお は はねあがり ごむ が あたらない よう ろーる に ちかづけない。

⑥まきとり ごむ は ひつよう いじょう に おおきく しない。

(めやす:ちよっけい て の ひら いか、ながさ 1m みまん)

⑦まきとり じ は、なるべく ないふ を ろーる めん かぶ に あて、まいて いる て は ばんく から 15cm いじょう はなす。

⑧まきとり ごむ を きる とき は、そえて(ないふ を もたない ほう の て)を ごむ の した に そうにゆう しない。

- ⑨1だいのろーるでふたりどうじに、ひだりとみぎからないふをもってさぎょうをしてはいけない。
- ⑩ごむをきるばあい、ないふをさきにあてがい、そえてはあとからもっていく。
- ⑪ないふはしっかりとぎり、はずれやすべりにきをつけ、はずれてもからだのかくぶあたらぬようみがまえる。
- ⑫ないふはひつようじいがい、ほるだー、ふれーむなどあんていしたばしょにおき、もったままさぎょうをしない。
- ⑬ないふをもっているときは、じぶんだけでなくしゅういのひとにも、あてぬようきをつける。
- ⑭まきとりごむがろーるのごむにふちやくしたばあいは、むりにひきとろうとせず、さいどまきなおす。

など

— いじょう —

2026ねん6がつ23にちかいてい